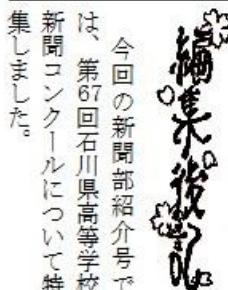


石川県高等学校新聞コンクール

9年連続で最優秀賞



北國新聞会館で表彰を受ける部員



今回の新聞部紹介号では、第67回石川県高等学校新聞コンクールについて特集しました。

この反省を日々の新聞作成に生かすとともに、9年間受け継がれてきた伝統をこれからもつなげていけるよう、部員全員で努力していくべきです」と安堵の表情だった。

また、同日に行われた部門の部審査会においては、本校の新聞について「災害を身近なものに感じられる」「雰囲気や色が統一されていて

10月15日に行われた第67回石川県高等学校新聞コンクール総合の部審査会において桜新聞第229号が9年連続となる最優秀賞に選ばれた。

この審査会で、桜新聞は特集記事の多面性や構成、レイアウトなど、様々な面において優れていると評価された。

この結果について、当時部長の高村美琴さん（30才）は「部員全員が一丸となって取り組んでいたからこそ、このような結果になれたと思います。自分たちの代でそれを評価されたことは、非常にうれしいです。今後もがんばってほしいです」

紙面紹介
特集しました。この本校に成績新おん学石川に聞けク校川新県高聞高等成校にコ等

となつて作り上げた新聞で最優秀賞を獲得することができ本当にうれしいです。先輩達が8年間最優秀賞を取り続けてきたということは自分にとって誇りでありプライドでもあったのです。自分たちの代でそれを評価されたことは、非常にうれしいです。今後もがんばってほしいです」

また、現部長の澤田真優さん（20才）は「最優秀賞を受賞できたと聞いたときはとてもほっとしました。今年は人數が少なく、先輩方のリードや部員の協力、団結がなければ最優秀賞は取ることができなかつたと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、今回審査の対象になつた新聞からはたくさんの方の意見が寄せられました。この反省を日々の新聞作成に生かすとともに、9年間受け継がれてきた伝統をこれからもつなげていけるよう、部員全員で努力していくべきです」と安堵の表情だった。



また、同日に行われた部門の部審査会においては、本校の新聞について「災害を身近なものに感じられる」「雰囲気や色が統一されていて

この審査会では、本校企画賞と学芸賞に選ばれた。この審査会では、本校の新聞について「災害を身近なものに感じられる」「雰囲気や色が統一されていて

これからも、部員全員が一丸となつてより良い新聞作りを目指して誠心誠意がんばつていきます。今後とも桜新聞をどうぞよろしくお願いします。

これからも、部員全員が一丸となつてより良い新聞作りを目指して誠心誠意がんばつていきます。今後とも桜新聞をどうぞよろしくお願いします。